平成19年　年頭のご挨拶

松井大悟

JSTT日本非開削技術協会　会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されたJSTTの理念は，「電力，ガス，通信，水道，下水道など地下パイプラインの調査，検査，建設，維持管理，マッピング等に関する非開削技術情報の交流により，わが国の地下利用技術の進歩，および安全性の向上を図り，広く社会公共の福祉の増進に寄与すること」となっています。非開削技術は，建設発生土の抑制，工期の短縮，騒音の軽減，景観の維持が保たれる等環境にやさしい技術であり，さらに交通事情や埋設深度等の条件により多くの場合開削工法に比べ経済的な工法です。ISTT（国際非開削技術協会）も広報においてこの両面を強調しています。この認識を広く世の中に受け入れていただくようJSTTは18年に及ぶ活動を続けてまいりました。この間次第に非開削技術の評価が高まってきていると確信しております。今後この評価をさらに上げるべく努力していきたいと思っています。会員の技術情報の交流や発信のため，従来から季刊誌「No-DigToday」の発行，技術研究発表会の開催，非開削技術見学会の開催，国際会議への出席，近隣諸国との交流，ホームページの充実を図っておりますがこれらをさらに充実させていきます。

昨年の研究発表会におきましては19件の応募がありこれらを5部門に分けて発表していただきました。内容は非常に高度でかつ多くの分野をカバーし日本の非開削技術の状況が把握できる貴重な論文集が出来ました。

季刊誌はタイトルを「非開削技術」から「No-DigToday」に改めて4年目になりますが，編集委員会・編集企画小委員会の各委員の努力により内容が充実してきたとうれしく思っています。道路を管理されている方々にさらに配布先を広げて，非開削技術の環境保全の役割について理解を得られることを期待しております。「道路を掘らない技がここにある」をキャッチフレーズに非開削技術の普及をさらに発展させるよう今年も努力していく所存です。平成17年度より発足した[HDD工法委員会]は標準設計・積算資料を作成し利用者への広報を積極的に行ってきており，工法の普及を図ってきております。各分野で関心が増えている状況ですので，さらに促進して行きたいと思っています。

ホームページは国内・外国の情報をさらに充実させるとともに，インターネットを利用して推進工法の設計をサポートする「工法ナビゲーションシステム」の運用が本格化していますがさらに改築更新技術も加え充実を図っています。今年も会員の意向に沿った施策を行いたいと思っています。

昨年10月にオーストラリアで開催されたNO-DIG・2006においてアジアワークショップが行われました。ISTTのメンバーである日本，豪州，香港，台湾に加えメンバーではない国，中国，韓国，マレーシア，シンガポールが参加しました。

これらの国は中国がすでに参加を表明していますように何れ正式のメンバーになると予想しています。アジアにおける非開削事業の市場は世界各国が注目しており，これらの国との交流を促進し，この市場情報を日本の会員に紹介できるよう努力をしていきます。

今年のNO-DIG・2007はイタリアのローマで行われます。2000年も前に非開削技術を駆使した古代ローマの土木技術は現在でも高く評価されています。また遺跡と現代生活を共存させている技術，ある意味では環境と調和している技術も興味あるところです。関心のある会員の参加を期待しております。